

個人差に対応する社会科学学習指導方法論に関する研究

—社会科個別化学習実践事例の体系的考察を通して—

A Study of Methodology of Teaching Social Studies Corresponding to the Different Learning Stages of Students

—Through Systematic Consider of the Practice of Individualized Learning in Social Studies—

渡 辺 玄

(北九州市立八幡小学校教諭)

I. はじめに

本来、学校教育は、一人ひとりの学習者を対象として各人の学習の成立を目的に営まれるものである。しかし、現実には、学習に興味・関心が持てず「意欲的に学習していけない子ども」や落ちこぼれと言われるような「学習についていけない子ども」が生じている。さらに、このことが、子どもたちの非社会的行為としての「登校拒否」「自殺」、あるいは、反社会的行為としての「非行」「校内暴力」「いじめ」といった大きな学校教育における社会問題を引き起こしている原因の1つになっている。

このような子どもたちが発生してきた背景の1つに、学校教育において「一斉画一授業」が普遍的に実践されていることが考えられる。一斉画一授業の中では、教師が学習内容も学習方法も設定しているので、その学習内容に興味・関心が持てず意欲的に学習していけない子ども、さらに、一部の子どもの発言によって授業展開していくといった学習の学習進度についていけない子どもや、このような学習方法になじめない子どもが生じてくる。すなわち、一斉画一授業の中では、一人ひとりの子どもたちの能力・適性といった個人差に積極的に対応することが難しく、一人ひとりの学習の成立が困難であるというのが現実である。

したがって、先のような学校教育における社会問題を解決していくためには、従来から広く実践されている一斉画一授業の短所を克服し、子どもたちが意欲的に学習できることや落ちこぼれを生じさせないことを目的とした個人差に積極的に対応することのできる学習指導の在り方が求められなければならないと考えられる。

ところで、最近、単行本や教育雑誌等に一人ひとりの能力・適性といった個人差に対応する実践発表がなされてきている。しかし、このような実践発表は、これまでの研究成果を踏まずに授業者が自分の研究を個々に発表しているに留まっている。したがって、これまでの研究成果を発展的に活用していくことが困難となっ

ていると考えられる。

そこで、本小論では、教科を小・中学校の社会科に限定し、このような実践事例を手がかりとして個人差に対応する社会科学学習指導方法を体系的に考察し、その手法と特質を明らかにしていくことにする。そして、今後の授業実践に示唆を与える個人差に対応する社会科個別化学習実践事例を取り上げ、これらの社会科学学習指導方法論の手法を考察する。

II. 個人差に対応する社会科学学習指導方法論の類型

研究対象とした実践事例(91事例)は、単行本・雑誌・研究紀要等から収集している。(1) これらの実践事例を手がかりとして、個人差に対応する社会科学学習指導方法論を「如何なる個人差に如何に対応しているのか」といった視点から類型すると、〈表-1〉のようにまとめることができる。(2)

個人差に対応する社会科学学習指導方法論は、「能力的個人差に対応する社会科学学習指導方法論」と「適性的個人差に対応する社会科学学習指導方法論」の2つに大別される。能力的個人差とは、課題解決に要する時間の個人差、及び、個人が現在の時点において発揮することのできる課題解決力としての達成力の個人差であると規定する。(3) 適性的個人差とは、個人が学習のねらいを効果的に達成するために必要な知識や技能などを獲得することが可能であるような個人の諸特性の個人差であると規定する。(4)

前者の能力的個人差に対応する社会科学学習指導方法論は、「学習進度の差に対応する学習指導方法」と「達成度の差に対応する学習指導方法」に類型される。

学習進度の差に対応する学習指導方法は、自由進度による学習指導方法(60事例)と進度調整による学習指導方法(16事例)の2つの手法が見られる。自由進度による学習指導方法では、子どもたちは、自由進度によって自分に合った学習ペースで学習していくことにより、学習進度の差に対応している。進度調整による学習指導方法では、必修学習と任意の学習の中で自

＜表－１＞

個人差に対応する社会科学学習指導方法論の類型			事例数
能力的個人差に対応する社会科学学習指導方法論	学習進度の差に対応する学習指導方法	自由進度による学習指導方法	60
		進度調整による学習指導方法	16
	達成度の差に対応する学習指導方法	補充学習による学習指導方法	27
		達成度別コースによる学習指導方法	4
		手引書による学習指導方法	24
		CAIによる学習指導方法	3
		チーム・ティーチングによる学習指導方法	8
適性的個人差に対応する社会科学学習指導方法論	興味・関心の差に対応する学習指導方法	課題順序選択による学習指導方法	22
		課題選択による学習指導方法	34
		課題設定による学習指導方法	34
		自由研究による学習指導方法	14
		マルチ教材・教具による学習指導方法	27
	学習スタイルの差に対応する学習指導方法	学習スタイルの適性拡充による学習指導方法	1
		学習スタイルの適性処遇による学習指導方法	36

分の学習進度の状況に応じて進度調整して学習していくことにより、学習進度の差に対応している。

達成度の差に対応する学習指導方法は、補充学習による学習指導方法（27事例）、達成度別コースによる学習指導方法（4事例）、手引書による学習指導方法（24事例）、CAIによる学習指導方法（3事例）、チーム・ティーチングによる学習指導方法（8事例）の5つの手法が見られる。補充学習による学習指導方法は、さらに、次の3つの手法に類型される。①子どもたちの個別学習中における学習ノートを紹介しての教師による形成的評価を基にして補充学習する手法、②単元終末段階でのペーパーテストによる形成的評価を基にして補充学習する手法、③子どもたちどうしの援助活動により補充学習する手法。このような手法により、達成度の差に対応している。達成度別コースによる学習指導方法では、形成的評価を基に達成度別コースに分かれて学習していくことにより、達成度の差に対応している。手引書による学習指導方法では、学習の指針や資料案内を示した手引書を活用していくことによって、達成度に影響を及ぼす資料選択時間の短縮や個別学習中のつまづきを少なくしていくことにより、達成度の差に対応している。CAIによる学習指導方法では、学習の指針や資料案内を示したCAIを活用

していくことによって、達成度に影響を及ぼす資料選択時間の短縮や個別学習中のつまづきを少なくしていくことにより、達成度の差に対応している。チーム・ティーチングによる学習指導方法では、教師のチーム・ティーチングによる個別指導を受けて学習していくことにより、達成度の差に対応している。

後者の適性的個人差に対応する社会科学学習指導方法論は、「興味・関心の差に対応する学習指導方法」と「学習スタイルの差に対応する学習指導方法」に類型される。

興味・関心の差に対応する学習指導方法は、課題順序選択による学習指導方法（22事例）、課題選択による学習指導方法（34事例）、課題設定による学習指導方法（34事例）、自由研究による学習指導方法（14事例）、マルチ教材・教具による学習指導方法（27事例）の5つの手法が見られる。課題順序選択による学習指導方法では、自分の興味・関心のある課題から学習していくことにより、興味・関心の差に対応している。課題選択による学習指導方法では、自分の興味・関心のある課題を選択して学習していくことにより、興味・関心の差に対応している。課題設定による学習指導方法では、自分の興味・関心のある課題を設定して学習していくことにより、興味・関心の差に対応している。自由研究による学習指導方法では、自分の興味・関心のあるテーマを自由に設定して自由な方法で学習していくことにより、興味・関心の差に対応している。マルチ教材・教具による学習指導方法では、自分の興味・関心のある課題を解決するためにマルチ教材・教具の中から必要な資料を選択していくことにより、興味・関心の差に対応している。

学習スタイルの差に対応する学習指導方法は、学習スタイルの適性拡充による学習指導方法（1事例）と学習スタイルの適性処遇による学習指導方法（36事例）の2つの手法が見られる。学習スタイルの適性拡充による学習指導方法では、特定の教材・教具の見方を具体的に学習していくことによって適性の拡充を図ることにより、学習スタイルの差に対応している。学習スタイルの適性処遇による学習指導方法は、次の3つの手法が見られる。①学習形態の自己選択をして学習する手法、②自由な表現方法で学習する手法、③いくつかの学習スタイル別コースに分かれて学習する手法。このような手法により、学習スタイルの差に対応している。

このように、個人差に対応する社会科学学習指導方法論の手法が類型できる。

Ⅲ. 個人差に対応する社会科個別化学習実践事例の考察

今後の社会科個別化授業実践に示唆を与える事例として、宇都宮大学附属小学校で実践された単元「雪国の暮らし」⁽⁵⁾と、北九州市立祝町小学校で実践された単元「すみよい暮らし」⁽⁶⁾を取り上げ、前章までに解明してきた個人差に対応する社会科学学習指導方法論を基に考察していくことにする。

(1) 小学校第4学年単元「雪国の暮らし」の事例

本事例では、単元の目標は明確にされていないが、人間と自然環境との間の相互依存関係や、その中で人間の生き方について捉えさせることがねらいとされている。さらに、一人ひとりの適性の広がり欠けるといったこれまでの学習の反省から、学習技能の中の資料活用力といった適性の拡充が目標とされている。そして、①雪国のようす、②十日町の人々の暮らし、③まとめ、といった学習展開で構成されている。①の学習では、雪国の人々は長い冬を雪の中で制約を受けて生活していることを学習し、雪から生活を守る人々の工夫といった視点から以後の学習で調べていく課題を設定している。②の学習では、個別学習の中で課題を解決するための学習をしている。③の学習では、これまでの学習の成果を出し合い、各自、単元のまとめをしている。

このような学習展開の②の学習で子どもたちは、(a)「十日町の消<除>雪のようす」、(b)「除雪の工夫」、(c)「冬の仕事」、(d)「暮らしを守る」、(e)「住み続ける相沢さん」、といった課題を解決するための学習をしている。はじめに、子どもたちは、一斉授業の中で、(a)の課題を解決するための学習をしている。次に、個別学習の中で、(e)の課題は必修とし、残る3つの課題は、各自の興味・関心から1つ選択している。そして、前者の一斉授業は1時間、後者の個別学習は4時間が当てられている。

前者の一斉授業では、子どもたちは、まず、十日町附近に住む人々は、生活を困らせている雪を取り除こうとどんな工夫をしているのか調べるといった本時のねらいを確認している。次に、教師は子どもたちに、この課題を解決するために関係ありそうな資料を資料コーナーから探してくるように指示している。次に、子どもたちの選んできた資料の中から、写真資料「消雪パイプ」を取り上げ、その写真からどんなことが分かるだろうかと発問している。さらに、この写真と同じ写真が教科書に掲載されていることを子どもたちに知らせ、「それを見て、自分が今、目をつけているところにはどんな印でもいいからつけてごらん」と指示している。その後、子どもたちは、自分のつけた個所

を基に話し合い、消雪パイプの働きを読み取っている。そして、この写真資料を基にした話し合いの後、分布図資料「十日町市の消雪パイプの分布のようす」を基に、十日町市での消雪パイプの広がりを色分けしたり、分布の多い所、分布していない所を○で囲んだりして、市街地と消雪パイプの分布との関連を読み取っている。このような一斉授業の中で子どもたちは、写真資料や分布図資料の見方を学習し、以後に続く個別学習の中で、これらの資料を活用して課題を解決していくことができるように適性の拡充を図っている。一斉授業後の個別学習の中では、一人ひとり自分に合った学習ペースで自由進度により課題を解決するための学習をしている。その際、写真資料や分布図資料だけでなく、VTR、暦、地図、グラフ、文章資料、といったマルチ教材・教具の中から自分の興味・関心から選択した課題や必修課題を解決するために必要な資料を選択し活用して学習している。

すなわち、本事例では、次のような手法を取り入れることにより、個人差に対応する授業実践となっている。

- 学習進度の差に対応する学習指導方法
 - ・ 自由進度による学習指導方法
- 興味・関心の差に対応する学習指導方法
 - ・ 課題選択による学習指導方法
 - ・ マルチ教材・教具による学習指導方法
- 学習スタイルの差に対応する学習指導方法
 - ・ 学習スタイルの適性拡充による学習指導方法

次に、前章までに明確にしてきた個人差に対応する社会科学学習指導方法論を基に、本事例を個人差に対応する発展的社会科学学習指導に改善していくための課題について考察する。

②の学習では、子どもたちは、個別学習の中でマルチ教材・教具を活用して課題を解決するための学習をしている。しかし、必要な資料選択に手間取ったり、個別学習していく上でつまずいたりするといったことが考えられる。そこで、個別学習の中で子どもたちどうしの援助活動により補充のための学習をし合ったり、マルチ教材・教具の資料案内や個別学習中のつまずきを少なくすることのできる学習の指針を示した手引書を活用したりして学習していけるようにすることが考えられる。さらに、個別学習により課題を解決していくようになっているが、子どもたちの学習形態に関する学習スタイルの適性を考えると、個別、あるいは、グループ学習のどちらでも学習できるようにすることが考えられる。

したがって、本事例を個人差に対応する発展的社会科学学習指導に改善していくためには、次のような個人

差に対応する社会科学学習指導方法論も併せて取り入れていくことが課題となるであろう。

○ 達成度の差に対応する学習指導方法

- ・ 補充学習による学習指導方法（子どもたちどうしの援助活動による手法）

○ 達成度の差に対応する学習指導方法

- ・ 手引書による学習指導方法

○ 学習スタイルの差に対応する学習指導方法

- ・ 学習形態に関する学習スタイルの適性処遇による学習指導方法

(2) 小学校第4学年単元「すみよい暮らし」の事例

本事例は、単元の目標として、「人々の健康で安全な生活を維持していくためには、地域の人々や地域社会の協力体制が必要であることを理解させる」が設定されている。そして、「北九州市民のくらしとごみ」、「北九州市民のくらしと消防」、「わたしの研究」といった3つの小単元から構成されている。

このような小単元の中の「北九州市民のくらしと消防」では、①オリエンテーション、②学習計画作り、③課題調べ、④「消防の仕事」発表会、⑤補充学習、⑥消防新聞作り、といった学習展開で構成されている。①のオリエンテーションでは、映画の視聴や写真を基に消防の仕事について概観している。②の学習では、オリエンテーションでの学習を基に話し合い、学級で調べていく4つの共通課題を設定している。そして、これら4つの課題を具体的に調べていくための下位レベルの課題を一人ひとり設定して「わたしの学習計画」を立案している。③の学習では、マルチ教材・教具や「学習の手引」（学習ノート）を基に個別学習の中で自分の学習計画にしたがって課題を解決するための学習をしている。④の学習では、自分の学習してきた4つの課題の中から、自分の発表したい課題を選択し、同課題を選択した者どうしでグループを構成し、グループ毎にその課題についてまとめ発表している。⑤の学習では、ペーパーテストによる形成的評価を基に補充学習している。⑥の学習では、一人ひとり新聞作りを通して本小単元の成果をまとめている。

このような学習展開の②の学習で子どもたちは、学級で調べていく課題として、(a)「消防車や消ぼう服のひみつ」、(b)「火事が起きたときの仕事」、(c)「消防士さんの苦労や工夫やお願い」、(d)「消防しょの仕事」といった課題を設定している。そして、これら4つの課題について一人ひとり自分の興味・関心のある課題から学習できるように課題の学習順序を選択し、さらに、これら4つの課題を具体的に調べていくための下位レベルの課題を一人ひとりの自分の興味・関心から設定して「わたしの学習計画」を立案している。③の

学習では、各自、自分の学習計画にしたがって7時間に及んで個別学習の中で自由進度により、課題を解決するための学習をしている。課題を解決していくに当たっては、教師や子どもたちによって準備したマルチ教材・教具の中から、自分の興味・関心から設定した課題を解決するために必要な資料を選択し活用している。そして、「調べたことの中から大切なことをまとめる」、「もし消防の仕事がなかったらどうなるのかな。それを考えてみよう」などといった学習の指針の示してある「学習の手引」に調べたことを書き込んでいくことにより学習している。さらに、子どもたちの個別学習中における「学習の手引」を介しての教師の個別指導により補充学習している。④の学習では、自分の学習してきた4つの課題の中から、自分の発表したい課題を選択し、同課題を選択した者どうしでグループを構成して、グループ毎にその課題について如何なる方法で発表するのか話し合っている。その結果、8つのグループを構成し、発表の方法としては、「ペーパーサートによる発表」、「OHPによる発表」、「模造紙による発表」といったグループとしての自由な表現方法を設定している。⑤の学習では、ペーパーテストによる形成的評価結果を基にして、各自、本小単元のねらいに対して達成不十分な点について教師の指導の基に補充学習している。⑥の学習では、「北九州市民のくらしと消防の仕事との係わり」について社説の中でまとめるといった約束以外は、一人ひとり自分の書きたいように自由に表現して新聞作りをしている。

さらに、前小単元、及び本小単元では、どちらの小単元においても「課題調べ」の学習の中で、学級で設定した課題毎に、「問題」→「予想」→「調べたこと」→「分かったこと」→「思ったこと」といった学習の手順が示してある「学習の手引」に調べたことを書き込みながら学習していくことにより、自らの力で考え判断して学習していくことのできる学習方法自体を学んでいる。そして、これら2つの小単元で学んできた学習内容や学習方法を生かして、小単元「わたしの研究」に取り組んでいる。小単元「わたしの研究」では、子どもたちは一人ひとり夏休みに、「水」、「電気」、「ガス」の中から自分の興味・関心のあるものを選択し、自由にテーマを設定して自由な方法で学習し研究物（わたしの研究）を仕上げている。

すなわち、本事例では、次のような個人差に対応する社会科学学習指導方法論を取り入れることにより、個人差に対応する授業実践となっている。

○ 学習進度の差に対応する学習指導方法

- ・ 自由進度による学習指導方法

○ 達成度の差に対応する学習指導方法

- ・ 補充学習による学習指導方法（学習ノートを紹介しての形成的評価による手法）
- ・ 学習の指針の示してある手引書を活用していくといった手引書による学習指導方法
- 興味・関心の差に対応する学習指導方法
 - ・ 課題順序選択による学習指導方法
 - ・ 課題設定による学習指導方法
 - ・ マルチ教材・教具による学習指導方法
 - ・ 自由研究による学習指導方法
- 学習スタイルの適性処遇による学習指導方法
 - ・ 自由表現していくといった学習スタイルの適性処遇による学習指導方法

次に、前章までに明確にしてきた個人差に対応する社会科学学習指導方法論を基に、本事例を個人差に対応する発展的社会科学学習指導に改善していくための課題について考察する。

③の学習では、7時間に及ぶ個別学習の中で自由進度により課題を解決するための学習をしている。そのため、子どもたちの学習進度に差が生じてくると考えられる。そこで、自由進度による学習指導方法に併せて進度調整による学習指導方法も取り入れていくことが考えられる。また、「学習の手引」（学習ノート）を紹介しての形成的評価による補充のための個別指導では、教師は、単位時間の中で限られた子どもたちにしか指導することができない。そこで、子どもたちどうしの援助活動による補充学習や、学習の指針や手順を示すだけでなく、達成度の差に影響を及ぼす資料選択時間の短縮を図ることのできるマルチ教材・教具の資料案内も示した手引書を活用することが考えられる。さらに、個別学習で課題を解決するための学習をしているが、学習形態に関する学習スタイルの適性を考えると、個別、あるいはグループ学習のどちらでも学習できるようにすることが考えられる。

したがって、本事例を発展的な社会科学学習指導に改善していくためには、次のような個人差に対応する社会科学学習指導方法論も併せて取り入れていくことが課題となるであろう。

- 学習進度の差に対応する学習指導方法
 - ・ 進度調整による学習指導方法
- 達成度の差に対応する学習指導方法
 - ・ 補充学習による学習指導方法（子どもたちどうしの援助活動による手法）
 - ・ 資料案内の示してある手引書を活用していくといった手引書による学習指導方法
- 学習スタイルの差に対応する学習指導方法
 - ・ 学習形態に関する学習スタイルの適性処遇による学習指導方法

IV. おわりに

本小論では、社会科学個別化学習実践事例（91事例）を体系的に考察することによって、個人差に対応する社会科学学習指導方法論の手法とその特質を明らかにした。そして、今後の授業実践に示唆を与える社会科学個別化学習実践事例における社会科学学習指導方法論の手法を考察した。このように研究対象とした社会科学個別化学習実践事例における個人差に対応する社会科学学習指導方法論を体系的に考察し具体的な授業事例を位置付けることによって、これまでの実践成果を発展的に活用していくことが可能となると考えられる。

今後は、解明した個人差に対応する社会科学学習指導方法論の特質を発展的に活用して、学習者一人ひとりが意欲的に学習参加でき、落ちこぼれを生じさせないことを目的とした個人差に対応する発展的社会科学学習指導の授業開発を行っていくことが課題である。その際、子どもたち一人ひとりの多様な個人差に多様な方法で対応できる授業開発、換言すると、学習者各人の多様な個人差に対して多次的に対応できる授業開発を行うことが課題となる。さらに、実践的な研究において検証していくことが課題となるであろう。(7)

<注>

- (1) 研究対象とした社会科学個別化学習実践事例（91事例）は、単行本、雑誌、研究紀要等から、150事例ほど収集し、それらの事例の中から如何なる個人差に如何に対応しているのか明確に分析できる事例として91事例を選択し研究の対象としている。
- (2) <表-1>に示す事例数が研究対象としている91事例を越えているのは、単元レベルで個人差に対応する社会科学学習指導方法論を類型しており、1つの単元が複数の個人差に複数の方法で対応している事例が多かったからである。
- (3) 能力的個人差の規定については、小口忠彦編「新学習心理学基本用語辞典」（明治図書、1983. 3）を参考にしている。
- (4) 適性的個人差の規定については、依田新監修「新・教育心理学事典」（金子書房、1980. 11）を参考にしている。
- (5) 宇都宮大学附属小学校「個を生かす授業の創造」研究紀要第22号、1988. 6 pp. 27～34.
本事例は、研究対象とした社会科学個別化学習実践事例のうち、唯一、学習スタイルの適性拡充による学習指導方法を取り入れている実践事例であり、今後の個人差に対応する授業実践に示唆を与えるものである。
- (6) 拙稿 北九州市立祝町小学校「合科的指導・モジュ

ール学習の研究－『私の研究』を伸ばす社会科指導－」
祝町小研究紀要第10集, 1985. 3. pp. 70～88.

本事例は、研究対象とした社会科個別化学習実践事例のうち、個人差に対応する手法が最も多様に取り入れられている事例であり、今後の個人差に対応する授業実践に示唆を与えるものである。

- (7) 詳しくは、拙稿「個人差に対応する社会科学習指導方法論に関する研究－社会科個別化学習実践事例を手がかりとして－」兵庫教育大学大学院修士論文, 1989. 12を参照されたい。